

工場自治に反對して来た。賃金さへ貰へば工場自治のやうな投機的な不安は出来ぬと云ふたものである。資本家の方も度々のストライキに疲れて来たものだから自ら進んで工場内職工の代議員を選出せしめて工場管理に與らしめるやうになつた。

工場自治と云ふにも色々通りがある。

- 一、工場内の安全設備その他一般状態に關するもの。
 - 二、職工の衛生その他訓練に關係するもの。
 - 三、工場内外に關する經營全部に關するもの。
- 之等の種類に従つて程度が違つて來るが立憲運動の根底には經營全部までも職工が參與しなければならぬと云ふ思想が横つて居るのである。

この方向を取る爲めには今日迄に英國に於ては鐵山では「才取り」と云ふのが労働者を代表して資本家と交渉して居り印刷ではクリフ・カーと云ふのがあり鐵上ではショップ、スチユアードといふのが今日まで存在して居た。之は労働者の分から出た委員であるが資本家側の方からも自ら破けて出て之をやつて居る。その好適例は次のやうなものである。

- 一、レノオルト會社のパーネチ鐵工場、職工五千
 - 二、ロオルスロイス機械及自動車工場は之は六千人と八千人の分
- 工場であるがその中四十迄が工場代議員を持つて居る。
- 相談事項は過程變更、時間、賞與金標準、人員淘汰。
- 三、フエニクス、ダイナモ會社、此會社には四千人の職工が有つて